

## 科名 13期ミュージアムへ行こう4

テーマ名 第2回 日本国宝展

事前学習 大阪市立美術館へ行こう（リニューアルオープン記念）

『日本国宝展』のみどころ

実施日付 2025年5月20日（火）10:00～11:50

講師 大阪市立美術館館長 内藤栄先生

初めに、奈良国立博物館で同時開催されている『超国宝展』との関係をお話されました。次に、大阪市立美術館に展示されている国宝を時代順に、プロジェクターで写真を映しながら、展示作業をされている時のエピソードも交えて、大変わかりやすく説明してくださいました。

- 1, 縄文時代～古墳時代 深鉢型土器・土偶他
- 2, 飛鳥時代（白鳳時代） 七星剣・聖観音立像他
- 3, 奈良時代 薬師寺東塔水煙・紫紙金字金光明最勝王経 卷四他
- 4, 平安時代 薬師如来坐像光背付属化仏【寺外初公開】他
- 5, 室町時代 慧可断臂図（えかだんびず）他
- 6, 桃山～江戸時代 唐獅子図屏風他

その他、

- ① 作品の時代背景となる「薬師寺論争」「浄土信仰」「神像の誕生」について。
- ② 今回の改修工事では、展示ガラスの反射が無いように工夫されており、とても見やすくなったこと。
- ③ 企画展示（コレクション展示）も素晴らしいものがあるので、是非ご覧ください。

などのお話がありました。来週の鑑賞がとても楽しみになる事前学習でした。

\*  
授  
業  
風  
景  
\*



テーマ名 第2回 大阪市立美術館 国宝展

鑑賞会

実施日時 2025年5月27日（火）10：00～自由解散  
（各班長よりCAへ解散報告）

場所 大阪市立美術館



大阪市立美術館リニューアル記念、及び大阪・関西万博開催記念として開催された本国宝展は、

1. 日本の国宝 —— 美の歴史をたどる
2. おおさかゆかりの国宝 —— 大阪の歴史と文化

という二つの大きなテーマに分かれて展示されていましたが、この報告書では、大阪市立美術館館長・内藤栄先生による講義の順序に従い、作品を鑑賞した時の感想をまとめてみました。

## 1. 縄文時代～古墳時代（15600 年前～紀元後 6 世紀）

- **深鉢型土器**（縄文時代中期）  
現在の新潟県で出土した、装飾がすばらしい土器でした。  
祭りなどの儀式に使われたのではないかとされていますが、  
確証はありません。
- **土偶**（縄文時代中期）  
豊穡や出産を願うために作られたものでしょうか。  
そのふくよかでかわいい姿は「縄文のビーナス」  
として知られています。

## 2. 飛鳥時代（白鳳時代）（7 世紀末～8 世紀初期）

- ・七星剣

「おおさかゆかりの国宝」に展示の四天王寺所蔵の剣。  
刀剣には道教思想に基づく北斗七星が刻み込まれています。

- ・聖観音立像（飛鳥時代）

微笑をたたえた表情と流れるような衣文が特徴的でした

## 3. 奈良時代（8 世紀）

- ・薬師寺東塔 水煙

東塔の頂部を飾る水煙。雲上に舞う計 24 人の飛天の美しい姿。  
「凍れる音楽」とも評される平城京最古の建造物です。



本国宝展でこの水煙のみが撮影可能でした。

- ・紫紙金字金光明最勝王経 卷四

紫の紙に金泥で書かれた美しい経文でした。

## 4. 平安時代（9～12 世紀）

- ・薬師如来像

聖武天皇の命を受け、行基が創建した大阪・獅子窟寺蔵のこの坐像は  
「おおさかゆかりの国宝」に展示されていました。

## 5. 室町時代（15 世紀）

- 慧可断臂図

中国の禅宗の高僧慧可が、初祖達磨に弟子入りするため、自らの左腕を切り落として決意を示した、という逸話を描いた雪舟筆の名品。

## 6. 桃山時代～江戸時代（16～1）

- 唐獅子図屏風

第一会場で迎えてくれた、桃山時代を代表するこの豪放な屏風は、信長、秀吉と二人の天下人に仕えた狩野永徳の作です。

まとめ：2 年半のリニューアルを終えた大阪市立美術館に、縄文時代から江戸時代まで、時を超えて今に伝わる国宝 130 点以上が揃いました。その他、修理補修事業を柱の 1 つとした「日本の美を未来へ紡ぐプロジェクト」、皇室に代々受け継がれた「皇居三の丸収蔵品に見る万博の時代」や佐伯祐三はじめ大阪ゆかりの絵画、富本憲吉作の陶器、さらには所蔵品の金工作品「羽人」を紹介する「コレクション展」など、1 日で鑑賞するには短すぎる濃厚な時間を過ごすことができました。

（2 班 広報担当）

企画展より「羽人」

